



音楽はメロディ、リズム、音色、テンポなどの要素を通じて人に大きな影響を与えています。旭川荘でも利用者の皆さんが音楽に触れることができるよう、さまざまな活動に取り組んでいます。

ミュージックアカデミー

旭川荘ミュージックアカデミーは、世界的なヴァイオリニストの五嶋みどりさんが主宰する「NPO法人ミュージックシェアリング」の提案で、2007年10月からスタートした障害のある子どもたちによる楽器演奏支援プロジェクトです。

知的に障害がある子どもの施設 旭川学園と肢体に障害がある子どもの施設 旭川療育園の中学部・高等部の生徒を中心に音楽に関心のある子どもたちが土曜日に集まって、ヴァイオリン、チェロ、フルート、サクソ、トランペット、ピアノ、ティンパニ、シロフォンなどの楽器演奏に取り組んでいます。

ほとんどのメンバーは楽器に触れるのも初めてでしたが、メンバーに合わせて簡単なメロディーにアレンジしたり、楽譜と楽器にカラーシールを貼ったり、補助具を工夫したり、マンツーマンで演奏箇所を指示するなどの工夫を重ねて練習しています。

練習を続けるうちにメロディーやリズムに合わせて演奏できるようになり、自信をつけてきました。メンバーのなかには、活動日以外に施設内で自主練習に取り組む人もおり、楽器演奏が本人の自主性を高め、生きがい・やりがいにもつながっています。





2008年10月に岡山県総合福祉会館で行われた「おかやま国際音楽祭」に参加し、初めての演奏を披露しました。2009年には2月と5月に岡山シンフォニーホールでの舞台を経験し、ますます自信を深めています。



この活動の提案者でもある五嶋みどりさんとは2度にわたって共演。2013年7月には皇太子殿下の前で演奏を披露することができました。



2015年3月には旭川荘の創立60周年を記念して開催されたオペラ「アマールと夜の訪問者たち」にアカデミーのメンバーも合唱団として参加しました。

2020年9月には倉敷市民会館で再演することが決定しています。



その後もさまざまな場での演奏活動を継続しています。

つばさコンサート

旭川児童院では重度の障害がある利用者が作った詩や、利用者の日常生活の様子を表現した詩に、ボランティアや職員が曲をつけ、年に一度コンサート形式で発表しています。1983年「第2回津山わたぼうしコンサート」に利用者の詩が入選したことがきっかけとなり、翌1984年に第1回つばさコンサートを開催。2019年で36回を数えています。

